



# 鶴小 I C T 通信

令和3年12月6日 第6号



## 学校課題研究

Active

学びを活性化する

Adaptive

学びを最適化する

Assistive

学びを支援する

鶴小 I C T 通信第 1 号でお知らせしたとおり、本校では、児童一人一人の学びを充実させるため、タブレット端末の効果的な活用方法について重点的に研究を進めています。研究主題を「気づき、考え、進んで活動する児童の育成～タブレット端末の効果的な活用方法の研究と実践～」とし、特に二学期に入ってから、多くの学年・学級で積極的にタブレット端末を活用した授業を行っています。

先日は、第一回授業研究会と研究協議会を実施しました。6年2組の算数の授業で、I C T を効果的に活用した授業を行い、授業後には教職員で振り返りをしたり、指導者に講話をいただいたりしました。

上半期は、私たち教職員にとっても、新たな学びの連続でした。これまでにない様々なツールを用いて、どのように子供達にとってよりよい学びにつなげるか、試行錯誤を重ねました。教職員間で情報を共有したり、研修を積み重ねていく中で、少しずつ子供達の主体的・対話的で深い学びの一助として活用できる場面が増えてきました。今後も引き続き研修を重ねてまいります。

### 授業研究会・研究協議会の様子 6年2組 算数

今回の授業研究会は、6年生の算数の授業で実施しました。単元は「データの特ちょうを調べて判断しよう」です。目的に応じたデータの収集や分類整理、グラフや表、代表値の適切な選択など、一連の統計的な問題解決の方法を理解できるようになること等がねらいです。この日は「ヒストグラム」の特徴について考察することが主な学習活動でした。子供達はタブレット端末から学習者用デジタル教科書を用いてヒストグラムを作成し、画面上で自分や友達の考えを見ながらその特徴について考えました。これまでの学習の積み重ねもあり、グラフの作成や自身の考えの入力等、子供達はスムーズに取り組むことができ、算数を楽しみながら主体的に、協働的な学びができました。I C T を効果的に活用した授業でした。

授業後の研究協議会では、これまでの実践や今回参観した授業について、教職員で振り返り、今後の授業をよりよくしていくための話し合いが行われました。また、指導者からの講話もありました。「これまでの授業実践の蓄積にタブレット端末を効果的に活用することで、主体的・対話的で深い学びが実現する」ことを念頭に置き、今後も子供達のために学び続けていくことの大切さを改めて感じました。

